

**同種造血幹細胞移植後患者における長期フォローアップ
服薬管理の向上を目指した薬剤師の取り組みに関する事前調査
～患者対象アンケート調査～**

研究対象：

国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科で同種造血幹細胞移植を施行し、現在、当科外来通院中の患者さんを対象とし、使用している薬剤の種類、また在宅療養での薬剤管理の状況を評価し、在宅での薬物管理支援の向上を目指した基礎資料を作成するための情報収集を試みます。

研究の概要：

同種造血幹細胞移植は、移植適応の拡大や治療関連死亡の減少により長期生存が期待できるようになってきています。一方で、長期生存症患者さんでは慢性 GVHD や感染症、2 次性発がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの移植後合併症の問題が注目されてきています。海外では、このような移植後合併症の早期発見、予後の改善につなげるため長期フォローアップ（Long-term follow-up：LTFU）システムを確立し実施しています。当院でも平成 24 年度より医師、看護師を中心に LTFU 外来を開設していますが、このような合併症管理のため、複数の薬物治療が行われ、また複数の医療機関を併診していることが予測されます。しかし、外来診療では院外処方せんによる保険薬局での薬剤交付が原則となっており、薬物管理をさらに複雑化し、患者さん個々に応じた適切な情報提供が行われていない可能性があり、在宅療養でのコンプライアンスやアドヒアランスに影響を与えている可能性が考えられます。しかし、移植後の患者さんにおける様々な合併症の有無や、その予防や治療を目的とした薬物治療がどのように行われているか等に関して調査している報告はありません。そこで、移植後の患者さんを対象に、処方内容の解析、院外の保険薬局対応についてアンケート調査を行い、薬物管理上の問題点を抽出し、薬剤師としてどのように介入していくべきかを検討していきたいと考えます。

研究の意義：

移植後患者さんでは、多くの薬剤を使用することがあり、薬物同士の相互作用や、臓器機能による用法用量の調節が必要となる場合があると考えます。今回、アンケート調査を行うことによって、移植後患者さんでの合併症の有無、使用薬剤を評価し、療養上での問題点や介入点を把握し、病院薬剤師、院外の保険薬局との連携が可能となれば、患者さんのアドヒアランスの向上につながると考えます。

目的：

本研究は、在宅療養での服薬管理状況、院外の保険薬局とのやりとり、その他服用薬剤に関する問題点に関して、アンケート調査を実施し、造血幹細胞移植後患者さんに特有の介入点や問題点を把握することを目的としています。将来的には、収集した情報を基に、移植後合併症管理が外来でも円滑に行えるように地域の保険薬局との連携にむけた資料を作成することを考えています。

方法：

対象患者さんの外来診察予定日に合わせて時間を設け、説明文書を用いて本研究の内容を説明したうえで、協力を得られた患者さんに対しアンケート調査票と返信用封筒を配布します。アンケート調査票への回答は自宅で記入していただき、後日、アンケート調査票を返信用封筒に同封してもらい回収し、解析を行います。

個人情報保護に関する配慮：

本研究は、無記名アンケート調査とし、患者さん個人が特定されない方法で情報収集を行います。よってアンケートへの回答をもって同意を得たものとし、回答後の同意撤回はできません。収集した情報は本研究以外で使用することはなく、解析終了後にはシュレッダー等の実現不可能な方法で廃棄いたします。

照会先および研究への利用に関する連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 薬剤部 西瀧 由貴子（研究責任者）

TEL 03-3542-2511 / FAX 03-3248-0730